
世界で最後の魔王が泣くとき。

神無月によ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界で最後の魔王が泣くとき。

【Nコード】

N1615BA

【作者名】

神無月によ

【あらすじ】

超能力者・雨宮新道率いる桜桜高校オカルト研究部メンバーは、一年前のある日、魔法が存在する異世界へと漂流してしまった。右も左もわからない一行を助けたのは、魔王を名乗る白髪の少女マナ。ファントム。やがて世界で最後の魔王として公開処刑される、優しい魔物の王だった。

1 | プロローグ

世界で最後の魔王は今、たった一人で城を守る結界を展開し、敵軍からのやまない猛攻をギリギリで凌いでいた。

かつての仲間たちは、どこにもいない。

完全敗戦してしまう前に全員、国王軍側に寝返らせたからだ。

戦争の勝敗が決した時、どちら側にいたかで、後々、個々の処遇は大きく変わる。

だから、長年この城に仕えてくれた者たちは例外なく、問答無用で忠誠契約を破棄させた。

魔王として最低な行為だったが、後悔はしていない。

もしかすると、現在こちらに攻撃している中には、元部下がいるかもしれない。

国王軍側に『負け戦だと分かって主を裏切り、反旗をひるがえした魔物』と認識されている以上、信用を買うには仕方がないことだろう。

かつての主に攻撃することで、彼らが生き延びられるのなら、これ以上に嬉しいことはないと魔王は思った。

これからは人間の時代が始まる。

中立の魔物たちの立場さえ危うくなる。

どうにしかして、上手く生きていく術があればいいのだが、きっと困難を極めるだろう。

魔物は今までのように自由にはいくまい。

(余の魔力も、もってあと二分か)

祖父の代から一〇〇〇年以上も続いた歴史ある魔王の古城も、じきに陥落する。

魔王とは言え無敵ではないのだ。

一体分の魔力では、せいぜい城外を包み込む結界一枚を張る手で精一杯である。

四方八方から降り注ぐ攻撃に、迎撃術式までは構築できない。

籠城作戦は、時間の問題と言えた。

城内の塔から空を見上げれば、闇色のドラゴンにまたがる空属

通称 カース が飛行している様を確認できた。

まるで死傷を負った獲物が息絶えるのを待つタカのように、ぐるぐると遙か上空を旋回している。

彼らは、空を愛したがゆえに太古の呪いを受けた五人の空属だ。

ただし、人間としての原型はほとんど留めておらず、下半身はドラゴンの背中と癒着している。

そして上下関係で言えば、人影の方がドラゴンの下僕にあたるのだ。

一人人がまがれる程度の全長を持つドラゴンは、しかし生物的な外見をしていない。

確かにシルエツトだけは立派なドラゴンのだが、まるで地面に映る影が二次元的な質量を得たかのように、体の構成物質は霧状のまがましい闇でなっているのだ。

それは液体、気体、固体、いずれの性質にも変化できる、暗黒色の魔法物質。

それは、かつて魔法使いたちによる実験でモルモットにされた、人との共存を望んだドラゴンのなれの果て。

それは、地対空迎撃式の魔法でも殺すことができない、正真正銘の怪物。

そして、魔王の城を監視する怪物は、なにも呪われた空属のドラゴンだけではない。

古城の近海を見渡せば、海の怪物クラーケンを従える世界最凶の海賊 ベリアル の布陣が視認できる。

島一つ分の巨体を誇る化け物は水面下にも潜んでいるのだろう、

まだ姿を現していない。

当然、頭足類の巨大生物を飼いならしていることだけが、悪名を轟かせている理由ではない。

ベリアル の構成員三〇〇人全員が、手練れの魔法使いだからだ。そんな海賊たちが駆る船は、たったの一隻。

高度な魔法コーティングが施されている、ホワイトマーメイド号である。

魔王の古城と肩を並べられるほど大型の帆船で、白い外装のいたる場所に、あらゆる方角への追撃を可能とする砲撃術式を搭載している。

見た目からは鈍重なイメージを受けるけれど、印象を裏切るようかなりのスピードを出せる上に、魔法による潜水航海が可能らしい。

空域も海域も封鎖されている。

こういった調子で残された領域である地上にも、深淵の山族が構えていた。

鬼姫イースリィハザート率いる、人ならざるモノノケたち。

美しい女性ばかりしか生まれない鬼の一族である。

一見すると人間の女性と変わらない姿をしているが、魔力の総量、魔法の手数、驚異的な身体能力は、白兵戦において並の魔法使いとは比べ物にならないという。

こと戦闘においては一体一体でもかなり厄介な種族なのに、今回は総出で出陣しているようだ。

見えるだけで一〇〇体は確認できる。

もはや空も海も陸も、退路は絶たれている。

魔王の魔力も底を尽きる頃合いだ。

そうすれば境界は消滅し、彼らは即座に城内へと殺到するだろう。ただし、すぐに魔王を討伐するわけではない。

世界最後の魔王 マナフアントムの処刑は、全世界同時中継の公開処刑が予定されているからだ。

人間サイドの勝利を。

魔物サイドの敗北を。

マナの死でもって宣言する。

すなわち、拮抗していた世のパワーバランスを国王軍が完全掌握したことを人間側への証明とし、魔物側への見せしめとするつもりなのだろう。

そんな人間サイドの勝利が確定するまで、あと三〇秒もない。

そんなことはわかかっていても、マナは最後の瞬間まで抗うことをやめなかった。

大切な時間を過ごした城を。

ここで紡がれた全ての思い出を。

たくさんの生命が呼吸していた証を。

一秒でも長く、失いたくなかったから。

魔王になつてから、いろいろなことがあった。

決して少なくはない思い出が、マナの脳裏をよぎっては消えていく。

(そう言えば、アマミヤたちは無事に戦火の外まで逃げられただろうか)

約一年前、マナの領土である樹海の中で出会った、とても不思議な少年少女たち。

(ちょうのうりよく、だったか)

魔法とは違う、彼らの世界の力。

もっとも、彼らの話によれば、この世界のように技術として体系化しているものではないらしいが。

(できれば、一緒に元の世界へ帰れる方法をさがしてあげたかった

が、それももう叶わぬな)

だからマナにできることは、彼らのために祈る神もないのに両手を合わせることにくだらな過ぎた。

(すまぬ、父上、母上、皆のもの。余は)

そして、時間は誰に対しても平等だ。
マナが心の中で謝罪を呟いた瞬間、

(そなたたちの時間を守りきれなかった)

古城を守っていた不可視の障壁が壊れ 空から 海から
山から 魔王の首を狙う者たちが一斉に押し寄せた。

国王軍による世界で最後の魔王マナ「ファントム」の公開処刑は、
明日、夜明けとともに執行されることが決定した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1615ba/>

世界で最後の魔王が泣くとき。

2012年1月4日02時00分発行